
Re:birth

nagi

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Re:birth

【Nコード】

N5408Y

【作者名】

nagi

【あらすじ】

3XXX年 天空から異形の者が舞い降りた。それらが地上に舞い降りると同時に世界は形を変え、一部の人間たちは新たな力を手にした。

新たな力を手にした人間たちが、異形の者へと抵抗することで世界は崩壊を免れた。

世界の変革から数百年後、あるところに一人の少年がいた。彼はただ罪人を裁くために生き、ただ人を守るために戦う。

あるところに一人の少女がいた。彼女はただ利用されるためだけに生かされていた。

少年と少女は出会い新たな物語を紡いでいく

邂逅（前書き）

駄文短文ですがよろしく願います。

邂逅

時が鼓動を止め、辺りには灰色の世界が広がっている。

そこに佇むのは少年と少女。そして、二人の周りに居る何人かの白衣の男達。

だが、白衣の男達はピクリとも動かない。

男達の周りにはナイフが浮いている。

そのナイフの切っ先は皆同一に、男達の脳天を指している。が、これもまた動くことはない。

どうやら、この灰色の世界の中で動いているのは少年と少女だけのようなのだ。

少年は少女に語りかける

「人は生まれを選ぶことはできない」

「・・・そう、それは自然の摂理・・・」

「けれど、生き方なら選ぶことはできる」

「・・・善に生きるも悪に生きるも人次第・・・」

「君はこれからどうやって生きていきたい？」

・・・そう、彼女にはそれを選ぶ権利がある・・・

「君の体はもう普通の物とはいえ無い。ソレは既に君の体には必要不可欠な物となった」

・・・ヒトの体にとってソレは明らかに異物・・・

「それでも君はまだ生きることができる。」

・・・だから、俺は・・・

「君に3つの選択肢を与える」

「一つ目の選択はここにとどまり続けること」

・・・その選択をしてしまうなら、俺がここに来た意味は無くなり、彼女は暗い闇の中へと堕ちていくだろう・・・

「二つ目の選択は今生に永遠の別れを告げること」

・・・その選択はある意味での救済であり、逃げの道である。現状で彼女が最も報われる選択はこれとも言える。・・・

「三つ目の選択は生きること。自身の進むべき道を考え、自由に生きる道」

「君はこの3つの選択肢からどの道を選ぶ？」

「……………私は……………まだ…人として…生きていきたい……………だから

…私に…生き抜く術を…教えて欲しい……………」

「本当にそれでいいのか？」

「……………うん…私はそれで…いや、それがいい……………」

「よろしい。君がそれでいいのならならこんな所早く出て旅の準備を始めようか。」

「旅？」

「そう、旅。いろんな人から逃げ続ける旅。ちょっと急な話かも知れないけど、君の進みたい道が決まった以上、ゆっくりしてる暇は無いんだよね」

「そうなの？」

「うん、そうなの。ああそう言えば彼等はどつする？」

少年の言う彼等とは、白衣の男達のこと。つまり彼等を殺すか否か、それを彼女に問いかけている。

「……………彼等は…殺さないで…お願い……………」

「そう？まあでも理由ぐらいは教えて欲しいかな」

「……………彼等は私にひどいことをしてきた。でも、彼等にも家族が居る。帰るべき場所があるのなら、その帰るべき場所で彼等を待っている人達に悪いと思う」

「君は優しいんだね。本来なら恨まれても仕方ないようなことをしてきた彼等に、そんなことを言える人間はそんなに居ないと思うよ」

「……………ありがとう、彼等を殺さないでくれて」

「いや、お礼を言われるようなことをやったわけじゃないんだけどね。というか、そのお礼の言い方だと俺が彼等を殺したいように言ってるように聞こえるんだけど」

「……………ちがうの？」

「ちがうよ。君は俺のことをなんだと思っているんだ」

「……………私を助けてくれた」

「助けてくれた？」

「殺人鬼」

「はあ……………まあいいさ」

「……………そのあたりの誤解はいずれ解けるだろう……………」

「さあ、早く外の世界に出ようか」

「うん」

少年と少女は歩き出し、新たな物語を紡いでいく。

止まっていた時が再び動き出し、灰色の世界は色を取り戻していく。

始動（前書き）

いきなり時間が飛びますが、さっきまでののはプロローグとってください。

始動

かつては都市だったここ一帯も、今では荒野になっている。

そこを走るバイクが一台ある。座席には黒髪の青年、その青年の腰に白髪の少女がしがみついている。

「今日は仕事無いんですか？」

白髪の少女が聞いてくる

「最近は何頼もあまり来ないし、悪い噂も聞かないからな」

「へーそうなんですか。でも、依頼が来ないと私達生活出来ませんよね」

「いや、そんなことは無いぞ。旅が始まってから貯めていた金があるはずだ」

「え！？そんな情報初耳ですよ！」

「いや、だって初めて言うし。知ってたら普通に怖いよ」

「何で教えてくれなかったんですか！？」

「いや、やましいことは無いからな」

「本当にですか？」

「マジで何も無いから。後ニヤニヤすんな」

「じゃあ教えてくれますよね？」

少女が弾んだ声で聞いてくる。

一本とられてしまった。残念ながら答えるしかないようだ。

「分かったよ、答えりゃいいんだろ答えりゃ」

俺はバイクを止め、降りながらそう答えた。

「よろしい」

「次の街があるだろ。ほら、何て言っただけ。」

「確かハルシオンですね」

「そうそう、ハルシオンだ。あの街は日本の中でも比較的大きい街だからな、当然人も集まるわけ。で、そこには学校がある。」

「で、そのハルシオンでなにするんですか？」

「そんなの学校に入るに決まってるだろ」

「……………？すいません、もう一回言ってくれませんか？」

「学校に入るに決まってるだろ」

少女は固まっている。そんなに変なこといったかな？俺は正常だ。大丈夫だ問題ない。

少女は一向に動かない。

頬をつついてみる。反応がない。

呼びかけてみた。へんじがないただのしかばねのようだ。

しばらく時間がたち少女は復活した。

「で、学校に入るのはまあいいとしてですよ。いや、あんまりよろしくない事態ですけども、なんでその話が金につながるんですか？」

「そんなもん入学金にきまつてるだろうが」

「で、その入学金とやらはどれだけ払わないといけないんですか」

「いや、それについてはわからん。聞いた話では試験に合格した上でその人の戦闘力、魔力、物質変換能力に応じて金額が変動するらしいぞ」

「へーそうなんですか。あ、試験内容は何なんですか？」

「これも聞いた話だが、面接と能力測定と実技試験の三つだ。よほど性格に問題がない限りどんなアホでも落ちることはないそうだ。」

「へーじゃあ蓮はごうかくできませんね」

「ちょっと待て！俺の性格のどこに問題があるって言うんだ！？さ

あ、言ってみろ！！」

「そういうところですね」

「クソッ痛いところ突いてきやがって」

「文字通りイタイところですね」

「チクシヨーーーー！！！！！」

俺の叫び声がこの何もない荒野に響いた。

緋乃宮 蓮 18歳 職業 請負人 もうすぐ学生になります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5408y/>

Re:birth

2011年11月20日04時01分発行